

# 中村設計新聞

## 第三十六号

六月一五(土)雨

今月の土曜研修は京都の伝統的な住まいである京町家について勉強会を行い。市内にある『吉田家』と『紫織庵』を見学しました。

### 〇はじめに

今月の土曜研修は、まず所内で京町家に関する基本的な基礎勉強をしました。その後、新町通りにある京町家『吉田家住宅』と『紫織庵』を見学しました。当日は雨でしたが、逆に蒸し暑い雨の日に京町家を見学したことで、風の通る涼しさや、雨にぬれた坪庭を見ることができ、伝統ある町家の情緒が感じられる見学会でした。

### 〇見学レポート①

〈京町家見学会の報告〉

今回の京町家を見学して感じたことは構造的力学・防火性・空間の取り方に工夫がなされ、機能面では、風通しや採光などにより夏の蒸し暑さを、和らげる効果をもたらす中庭など毎日の生活に欠かせない工夫をこらし使い勝手にまでも配慮されています。さらに建物を構成する部材や仕上材は、職人が巧みに技を使いこなし造られた技術を見ることができました。これらの「構造・機能・技術」に「意匠性」を加えてバランス良く組み合わさっており全てに意味のある奥深い建物であった。

また、最初に見学した際、吉田家当主が話された「無理のない寸法で造つてある」と言われたことは、設計者として心得ておくべきコメントであった。最後に、見学中は所員と建物造作や空間のとり方など話しながら、互いの知識を深めることができ有意義な見学会でした。

豊田 和弘

### 〇見学レポート②

〈京町家を見学して〉

今回、伝統的な京町家を見学したことで改めて先達の考え方や作事に対する情熱というものが伝わってきました。そもそも、現代の人々はそれらを伝統として認識していますが、当時の人々は伝統的だ、と考えていたでしょう。当時の人にとつてそれは習慣であり、日常というものは歴史的な流れからくるものだと思います。そして歴史の根本とは日本の環境風土から来るのです。そのごく自然な日本建築のプロセスを圧倒的な外力で変貌させ、日本人自身がそれを伝統的であると、まるで外国人の様に意識している状況に、考えさせられる思いがしました。

井澤 弘隆

### 〇まとめ

今回の京町家(吉田家・紫織庵)の見学会では、所員から共通して京町家の知恵や工夫、構造的な考え方や暮らし方等への関心が高まったとの意見がありました。また、事前に京町家の間取りや形態、構造についての勉強会を行ったことで、見学を通してより理解が深められたことも良かったのではないのでしょうか。両家とも素晴らしい建物で、使用する材料や部材から職人のこだわりが感じられました。意匠や空間構成など、先達の技から学ぶべきことがたくさんあり、大変勉強になりました。

### 〇グリーンカーテン

ゴーヤのグリーンカーテンは5年目に突入。太陽の光を浴びてすくすくと3階まで成長し、直射日光を遮って暑さを和らげてくれていきます。



7月20日撮影  
ゴーヤも夏バテがみ。  
元気がなくなってきた？

今年も暑い日が続きますが、夏バテに注意しながら、仕事に励んでいきます。



\*吉田家住宅の表構\*  
格子・駒寄せ・パツタリ床几の揃う表屋形式の京町家



\*紫織庵の表構\*  
茶室、応接室が見える大堀造りの京町家



\*吉田家のハシリニワ\*  
色々な職方の技術が  
つまった立派な空間です。

## ~ 京町家写真館 ~

